

令和7年度 江戸川区立南葛西中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

<p>学校教育目標</p>	<p>人権尊重の精神を基に国際社会に貢献できる日本人の育成 1 学びつづける人 2 思いやりのある人 3 心身の健康に努力する人</p>	<p>目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像</p>	<p><学校像>・生徒の能力を高め資質の向上をめざす学校 ・入学させてよかったと保護者、地域から信頼される学校 ・教職員も資質の向上を常に心がけ、高め合い組織的に協働できる学校 <生徒像>・人権意識、思いやりの心を持ち、自己を大切にしながら他者も尊重できる生徒 ・自らの目標を定め、向上心を持ち、主体的、意欲的に学ぶ生徒 ・コミュニケーション能力を高め生活に生かせる生徒 ・地域の一員としての自覚をもち、地域を大切にする生徒。 ・南中プライドを常に胸にとどめ、規範意識のある生徒 <教師像>・生徒一人一人の理解を深め、生徒のより良い育成に使命感を持って取り組む教師 ・組織の一員としての自覚を持ちながら学校としての課題の克服に、意欲的に取り組む教師 ・教育公務員としての責任ある言動の履行を厳守し、説明責任が果たせる服務を実践する教師 ・日常の授業を大切に、主体的に学びに向かう授業を行うための研修を励行する教師</p>
<p>前年度までの本校の現状</p>	<p>成果 数学・英語の習熟度別少人数授業を行ったことで、生徒の学習意欲が高まった。学習用タブレット端末を効果的に授業で活用し、生徒の学習意欲を引き出すことができた。支援が必要な生徒に対する研修会を実施したことでユニバーサルデザインの視点に立った対応について、理解が深まった。関係諸機関と情報共有できたことで、効果的に支援をすることができた。</p>	<p>課題</p>	<p>・学習の習熟度に個人の開きがある。放課後学習教室や習熟度少人数授業の実施の重要性が増した。 ・不登校巡回教員と協力し、不登校生徒の対応だけでなく、未然防止に努める必要がある。 ・部活動指導員を活用し、教員の負担軽減を図る必要がある。</p>

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○授業改善の推進 ○学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得 ○家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実 ○情報教育・活用能力	・習熟度別少人数授業（数・英）の実施 ・一人1台端末の授業内での効果的な活用	・2月末実施の到達度テストにおいて、昨年度以上の結果 ・毎時間授業で活用し、生徒の満足度80%以上	B	B	B	・習熟度別少人数授業の成果が全国学力調査（3年）などの結果として表れている。個に応じた指導を引き続き進めていく。 ・一人1台端末は積極的に授業で活用されている。	B	成果が上がっているのは素晴らしいこと。一人一人を見ている様子がうかがえる。区の目標の都平均に迫るように頑張ってもらいたい。ICTによる影響で姿勢の悪くなる子もいるようなのでそのあたりも見てほしい。	A	・英、数において少人数授業を実施した。習熟と別での展開で小集団による丁寧な指導を展開することができた。	A	学習指導に力を入れている様子が分かる。学習をなぜやらないといけないのか、ということも伝えていただけるとありがたいという保護者の意見もあった。	今年度の取組を継続しながら、来年度も数値目標を意識して学力向上に取り組んでいきたい。
		・外部委託による放課後補習教室の実施と有効な活用（数・英） ・江戸川っ子study weekの積極的な参加の働きかけ	・年間90回の実施と対象生徒の学力の10%向上 ・参加率90%以上	B	B	B	・教員の粘り強い声掛けで放課後学習教室への参加率も高くなっている。 ・江戸川区学力調査の結果を反映した取組となるように時期を設定している。	B	ICTを活用して家庭学習を進めているのは素晴らしい。	B	・昨年度に比べて、実施回数は減ったが、放課後補習教室が実施されたときは高い参加率となった。 ・study weekは高い参加率を誇る事ができた。採集は、今年度の区学力調査の結果を反映できる3月の実施を設定している。	B	家庭学習をやりきる指導をしていただけてよい、一方で提出が難しい生徒、欠席のあった生徒へのフォローもあるとよい。	丁寧に根気強く学習指導をおこなったが、取組が難しい生徒などへの個別の対応が次年度の課題である。
	○読書科の更なる充実	・読書科による活用…各学年5～10回 ・区立図書館職員による学校図書館整備 ・「読書科」についての情報共有及び深化	・活用率80%以上 ・年間22回実施 ・各学期1回以上 ・取組評価肯定回答80%以上	B	B	B	・実施時期を検討し、活用を進めている。 ・貸出図書のパッケージ化などを進め、環境整備が進んでいる。 ・今後共有を進める。	B	本の紹介リーフレットや図書館司書による図書室の整備など生徒の取組や環境整備がうかがえた。	B	本の紹介リーフレットは見ごたえがあり、学校公開や学校評議委員会等でよい感想を得られることができた。パッケージ化により、図書の貸し出しが冊数のとりまとめが容易になった、	C	保護者アンケートの中では、約半数の保護者が読書に親しんでいると感じていないようである。	デジタル化が進む中、読書への関心等を高める取り組みが必要である。
体力向上	○運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施・改善	・体育の授業及び部活動における補強運動の取組 ・ロードレース大会を実施し、生徒の体力向上とスポーツに取り組む達成感や意欲を高める	・新体力テストにおいて、全学年都の平均以上の成果を出す ・ロードレース大会の完走者90%以上	A	A	B	・授業で補強運動を行っている。 ・11月のロードレース大会に向けて授業でも継続した取組を行っている。	B	ロードレース大会の実施はすばらしい。実施の環境は難しくなってきたとは思いますが、できる限り実施ができると良いと思う。	B	・体育の授業では補強を行っているが、見学者が多い時がある。 ・コース上の工事の都合で距離等の変更があったがやりきることができた。	B	部活動に励んだり、休日は外で体を動かしたりしていると感じている保護者は77.5%であった。	補強や行事等で運動を促すことができた。運動が苦手な生徒にも健康的に体を動かすことを伝えていく必要がある。
共生社会の実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・特別支援委員会隔週1回の実施 ・研修会の実施	・情報共有し、全教員で取り組む。 ・特別支援教育研修を年3回実施する。	A	A	B	・隔週に一度委員会を実施している。対応をどのようにするか検討し、全員で検討することができている。	B	様々な特性のある生徒をよく見守って支援している。生徒の活躍の場が与えられているのも良い。	B	・生徒が周囲の生徒を受容する温かい雰囲気醸成されている。	B	丁寧な説明と必要な時に家庭と十分に連絡をとっていると回答した保護者は93.7%であった。	特別支援委員会での情報の共有や手立ての検討を行うことができた。引き続き、生徒のニーズをよくとらえて支援していきたい。

不登校・いじめ対応の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○不登校対策の実施・充実 ○教育相談の強化 ○Ohypaer-QUの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸川区子どもの権利条例の理解 ・生徒一人一人に寄り添い、状況把握に努めるとともに不登校対応巡回教員を活用し、SCなど外部の機関につなげる ・学級だけでなく学年や学校で情報共有して活用していく ・校内別室指導支援員を活用し、生徒の復帰を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒に対して、週に1回程度、家庭連絡を行い、必要に応じて家庭訪問を実施する ・SC相談件数の昨年度比増加 ・研修会を実施し、活用を深める。 ・教室復帰2割を目標とする。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校対応巡回教員を活用し、家庭訪問を実施、また関係機関との連携を図ることができている。 ・SCの相談件数は昨年度より減っている。一方でSSWの相談件数が増えている状況がある。生徒、保護者のニーズに沿いながら対応をしていきたい。 ・研修会は計画的に進めている。 ・教室への復帰は難しいが、校内別室やみらいサポート教室を活用する事例が増えている。 	B	多くの先生、機関がかかわりをもっている様子がうかがえる。様々な選択肢があるのはよい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校巡回教員のかかわりや関係機関の利用等で、つながりをもつことができた。 ・SCの相談件数は増加した。SSWの相談件数も高い状況である。ニーズをよく把握しながら推移をみていきたい。 ・校内別室やみらいサポート教室の利用が多くあった。生徒が数ある選択肢の中から選べるように支援を継続していきたい。 	B	生徒自身のニーズをよく汲んで適切な支援を行っていただくことを願っている。	様々な提案をしながら、生徒にあった取組ができるように支援することができた。来年度以降も生徒や保護者の声を聴きながら支援ができるようにしていきたい。
学校(園)の開かれた地域社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ○自校(園)の取組の積極的な発信 ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教員が更新できるようスキルアップを図る ・設定した公開期間に学校公開を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1週間に1回は更新し、情報発信を行う。 ・年4回実施する。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの教員が行事等のためにアップロードしている。毎日更新している。 ・計画通りに学校公開を実施している。 	B	南中学生の活躍が見られるのを楽しみにしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の給食や行事の写真を更新している。 ・多くの方々に学校公開に来ていただいた。 	C	保護者のアンケートから、HPの更新頻度を上げてほしい、またはお知らせも極力HPやtetoruでの配信にしてほしいという意見があった。	HPの更新頻度のUPやお知らせのICT化の意見をいただいたので来年度も充実した運営やペーパーレス化をさらに意識した取組をしていきたい。
教育の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○学校関係者評価の充実 ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会で地域から見た学校の意見をまとめ、教育活動の充実・改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に対する満足度を80%以上とする 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・行事のたびにとっているアンケートを参考に改善を進めている。学校関係者評価はこれから実施する。 	B	委員会の開催やアンケートなど、目標に従って具体的な取組を実施している。	B	自由意見も参考としながら来年度の教育活動に生かしたい。	B	「お子様は学校に行くことを楽しいと感じていますか」という問いでは、「はい」「どちらかといえば、はい」と答えた家庭が87.5%であった。	様々な意見を取り入れることができたが、学校評議員会などでいただいた意見をさらに学校運営に生かしていきたい。
特色ある教育の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤日を設定 ・SSS、副校長補佐を活用し、職員の業務軽減を図る ・部活動指導員、外部指導員の活用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回定時退勤日の実施 ・教員の満足度80%以上 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤日を強く意識するように声掛けを行っている。昨年度に比べて総勤務時間は短くなっている。 ・部活動指導員は昨年度の1人から今年度は2人に増やした。引き続き活用を促進していきたい。 	B	先生方の心身の健康に気をつけてほしい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤日を強く意識して実施することができた。 ・部活動指導員や外部指導員を活用することができた。他部活動での希望などを踏まえて来年度につなげていきたい。 	B	自由意見の中に、丁寧な対応を感謝している反面、先生方の勤務時間を気にしている、というものがあつた。	定時退勤日の意識をもつことと、教員の業務量の偏りがなくなることを目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な社会の担い手を育むため、教科等横断的な視点に立った実践の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsへの取組を中心とした、研修とその実践 ・グリーン活動ボランティアの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の取組を各学期に1回実施 ・生徒の取組を80%以上とする 	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の実施している使用済みペン回収などの取組を行っている。 ・グリーンボランティアの活動は、今年度は花の苗植えを実施している。 	B	地域、学校応援団としても協力できるとことはする。	C	継続的に行っている活動はできたが、新たな活動や新しい提案はできなかった。	B	SDGsの意識も生徒に浸透しており、節電、節水をよく心掛けていると思う。	様々な視点でSDGsに取り組めるように意識していく。